

そうだ、頼まれてもいない
ことをしよう



せいやん

あれは30歳になった年の正月、友達から届いた年賀状に書いてあった一言。「今年のテーマは何?」。なんか、はっとした。毎日仕事に頑張っているけれど、新入社員のように日々成長して行く時期はとっくに過ぎていた。仕事もそれなりにこなせるようになり、現状に安住しかけていた自分に気づいた。そうだ、まだまだじゃないか。ひとつずつ積み上げて行かなければ。

それ以来毎年1月に、その年のテーマを決めることにしている。「カエテミル」「千円札は拾うな」など、今までのテーマには、本に影響されたものが少なからずある。実際、1年という期限を切ることで、本の中身を実践に移すことがしやすいのだ。これからずっとやろう、と思うと三日坊主が怖くて気遅れするけど、今年1年やってみよう、なら気軽に決心できるし、なにより「去年までとは違う自分」が実感できる。「去年までの自分だったら、ここでこういう行動は取ってないだろうな」なんて、これが結構楽しい。

そんな中、2011年の夏に一冊の文庫本を見つけた。「ナガオカケンメイの考え」。ハードカバーの時から気にはなっていたから、即購入。さっそく読んでみたら、最も強烈なパンチが、冒頭にあった。「人って、人から頼まれて初めて何かを始める。人から何も頼まれていないのにものを創作しだした時、初めてクリエイターになるんだって、そう思うんです」。ガツンと来た。普通、インプット(刺激・命令)があって、それへの反応としてアウトプットがある。人間もコンピュータも同じ。だけど、内からわき上がるものをアウトプットする、それは人間にしか出来ないこと。そして、誰でも出来るけど、ほんの少しの人しかやっていないこと。そうか、これはちょっと人生変わるくらいの「ガツン」かもしれないぞ。この衝撃は大切にしたい、と思った。

そんなわけで2012年のテーマは、「頼まれてもいないことをやる」に決定した。久しぶりの仲間との飲み会を企画するか。電子書籍を書いてみるか。面白い1年になりそうな気がしている。

この本に僕が本当に影響されるのは、これからだ。